



EIWA UNIVERSE

発行日 2015. 7. 23



社会福祉士の国家試験合格率 現役生**50.0%**を達成!

2014年1月26日に第26回社会福祉士国家試験が行われ、本学でも16名の現役学生が受験しました。全国合格率は27.5%でしたが、本学では8名の合格者が誕生し、合格率は50.0%に達しました。

今回受験した16名は、4年次の5月より大学で行う「国家試験対策講座」に参加し、受験勉強を重ねてきました。推薦入試で大学に入学した学生のように、受験が高校受験以来という人もいましたが、大学では授業の空コマを行う前期2回の対策講座(計1,980時間)、後期2回の対策講座(計3,060時間)、月に1度の模擬試験やその復習を行う確認テスト(計11回)を設け、みな熱心に取り組みました。

9カ月にも及ぶ受験勉強で受験生が最も苦勞していたのは、自分との闘いです。自分の勉強方法がこれでのいかと不安になったり、何度繰り返しても覚えられない自分に嫌気がさすなど、受験勉強を通して自分自身と戦っていました。不安を抱えつつも、自主的に仲間と勉強会を開いたり、最後まで目標に向かってあきらめなかった学生が見事合格を勝ち取ることができました。

国家試験の担当者からみて、国家試験に合格する秘訣は次の二つだと考えます。一つは、「国家試験に合格したいという熱い気持ち」です。この気持ちが揺らいでいる学生は、詰めが甘くなり、最後まで頑張りぬくことができません。また、本人は「試験に合格したい」というのですが、対策講座や模擬試験に合わせた体調管理ができない

学生は、残念ながら合格しませんでした。熱い気持ちとそれに伴う行動をとれることが、最後までやり遂げる力になったようです。

二つ目は、「何かに一生懸命に取り組んだ経験があること」です。一生懸命に「勉強」に取り組んだ経験がある学生は、勉強の仕方を知っていますが、残念ながら本学にはそうした学生はあまり多くはありません。しかし、スポーツなど長期間一生懸命に取り組んだ経験があれば、気持ちのコントロールの仕方、息抜きの仕方を知っていますから、それを受験勉強に反映させることができます。一生懸命に取り組んだ経験がある学生は、それを受験勉強に生かすことができました。

合格率50.0%という数字は後輩たちにも大きな励みになっています。合格した学生が自分に自信をもって社会に羽ばたいていったように、これから後に続く学生も同じ思いが味わえるよう、今後もさまざまな面から応援したいと思います。(コミュニティ福祉学科 岡部)

目次:

学長あいさつ	2
宗教委員会より	3
ボランティアセンターより	3
学科News(大学)	4
学科News(短大)	5
キャリア支援課より	6
学務課より	7
留学生センターより	8
総務課より	8

今号のハイライト:

- クリスマスプレゼントを贈ろう(3ページ)
- 課外活動も積極的に頑張っています(7ページ)
- 留学生への活動を紹介☆(8ページ)



自己の確立を目指して

思い切り情熱を傾けることを見つけれれば、毎日が活気あるものとなる。

学長 武藤 元昭



今年度も早くも4ヶ月が過ぎようとしています。新入生の皆さんにとってはどんな時間だったでしょうか。目的に向かって着々と歩を進めてきた皆さんには充実した日々だったと思います。期末試験の後は、入学後初の夏休みとなります。高校までと比べてあまり制約のない長期の休日となると思います。卒業しますと、勿論こんな自由な休日は得られませんし、高学年になると就職活動等で落ち着かない日々を過ごさなければならぬと思います。その意味では、新入生や大学2年生の夏休みが一番時間の融通が利くものになると思います。

一方、ここまで何となく過ごしてきたという諸君にとっては、一旦立ち止まって自分を振り返る良い時間になると思います。

長い教員生活を過ごした者の経験から言いますと、大学生活を終えて暫くしてから会った卒業生から、大学時代もっと勉強しておけば良かったと思う、といった趣旨のことばを聞くことがしばしばあります。大学時代は短いようで実は長いのです。問題は、如何に有効に過ごすかです。それに



は、何かに打ち込むとか何かを好きになるとかということも大切ではないかと思います。思い切り情熱を傾けることを見つけれれば、毎日が活気あるものとなります。

大学の改革ということが声高に叫ばれるようになってから、何年も経ちました。常に進歩し続けるよう心掛けることは必要ですが、それは背丈に合った考え方でなければ意味がありません。本学は伝統的に英語に強かったので、現在でも英語の得意な人には是非力を伸ばしてもらいたいという気持ちは大いに持っていますし、現にそうした向きのカリキュラムもあります。英検2級以上の資格を持って入学してくる学生諸君には、授業料等の優遇措置をとる制度もあります。英語の得意な諸君には、大いに頑張ってもらいたいものです。

とは言え、国の方針として国際性を身に付けさせるという点に関しては、安易な同調をする必要はないのではと思うのです。本学は本学の身の丈に合った方法で、少しでも学生諸君の国際性が身に着くようにして行けばよいと考えるのです。

それより、私は学生諸君がこの大学に来て良かったと思えるようになってもらいたいということに常に考えています。国際感覚は勿論大切ですが、それよりもまず社会人としての基礎をしっかりと学び、自信をもって社会に出ていくことの方が大切だと思います。何らかの知識を身に付けることが出来ても、社会に出た時、誰とでも対等に接して行ける自信がなければ社会では通用しません。己れをしっかりと主張すると共に他人の考え方も余裕をもって受け入れることが出来る人間性を、この大学で養って下さい。本学はそれを目指しています。それが出来た時、皆さんは本学に来て本当に良かったと思えると考えます。

新入生と静岡英和学院大学での最初の「出会い」

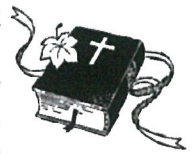
静

岡英和学院大学の新入生たちはこれからたくさんのお出会いがあるに違いないが、まずは入学式、そして始業礼拝、そしてスチューデント・リトリートという三大イベントに出会い、「静岡英和大学はキリスト教主義の大学なのだ」と実感したことであろう。大学の礼拝は開学以来行われているが、新館5階の講堂にて毎週水曜日10時半から始まる。今年度は4月3日の始業礼拝から始まった。4月23日にはイースター（復活祭）礼拝を行ったが、今年は二年生有志がイースターのポスターを作成したり、またイースターの飾り付けや礼拝後に配布するためのお菓子入りのイースターエッグを400個用意したりと、色々お手伝ってくれた。毎回、学生達は聖書のお話を聞き、オルガンに合わせて讃美歌を歌い、また「主の祈り」を祈りつつ、静かに自分を振り返る貴重な時間として過ごしている。最近では二年生以上もチャペルに参加する学生が出てきたのは画期的なことであると思う。

新入生のスチューデント・リトリートは4月11日（金）から13日（日）まで短大、大学それぞれ一泊二日の日程で「出会い！」の主題の下、キリスト教施設である天城山荘にて行われた。一年生全員と引率教員と各学科の引率上級生が共に一泊二日を過ごし、それぞれがこれから始まる大学生活の良い出会いの場となったことであろう。日常の喧噪から解放された静寂でゆったりとした気分と大チャペルや中チャペルがあり、キリスト教の独特の雰囲気に触れ、また自分のこれからを考える絶好の機会となったことと思う。当日は、東静岡からバスで、天城山荘に到着した。まず、

大チャペルにて開会礼拝を行った後、食堂に移動して食前のお祈りの後、美味しい昼食を食べ、ホテルの方へ全員で元気よく「よろしくお祈りします！」の挨拶。ホテルの支配人からは歓迎の言葉と宿泊施設の説明があった。14時から一日目のプログラムを開始。「リトリート」全体のスケジュールの説明の後、引率教員と上級生の簡単な自己紹介があり、約40分、上級生による自分の経験を基とした大学生活へのアドバイスがあった。その後のグループ討議や夕食後、大チャペルにてキャンドルサービスを行った。一人一人、キャンドルをもち、静かに礼拝の中に身をおきつつ、この1日を振り返ることができた。その後は体育館で汗を流す者、仲良くなった友とまた、先生や上級生と語り合う者-今回は特に四大生の方は上級生によるミニライブもあり-それぞれが自由な時間を過ごした。翌日は庭に出て、全員でラジオ体操やゲームをして、天城山荘での最後の食事。その後、お世話になったホテルの人たちに全員であいさつをした。閉会礼拝までの1時間は再び、学科毎に用意したプログラムを行った。最後のプログラムは伊豆三津シーパラダイスへ。イルカショーに感動して手をたたいたり、水族館の魚たちに癒されたり本当に楽しい時間を満喫した。後日、チャペルで「リトリートを振り返って」と題して10人の学生に話をしてもらったが皆、良いスタートが出来たようだった。一人一人がこれからもたくさんのお出合いを大切に、愛と奉仕の精神を身につけて充実した大学生活を送って行けることを祈る。

（宗教部 伊勢田奈緒）



『クリスマスプレゼントを贈ろう！』企画による募金活動&呼び掛け

ボランティアセン

ターでは、学生スタッフ国際協力チームによる初の試みである「クリスマスプレゼントを贈ろう！」という活動を開始しました。

サマリタンズ・パースというキリスト教団体が、オペレーションクリスマスチャイルドという世界中で戦争や飢餓、貧困に直面する100カ国以上の子どもたちに靴箱一杯に詰められたクリスマスプレゼントを贈る活動を行っています。

その靴箱一杯のクリスマスプレゼン



トを贈る送料(1箱あたり700円が必要)を集める為に、5月20日(火)に募金活動と玩具の提供の呼び掛けを、新館食堂前と本館入口前で行いました。大勢の方々が協力して頂き、4,661円が集まりました。ご協力の程本当にありがとうございました。

この企画はまだまだ続きますので、またご支援と応援の程、宜しくお願い致します。（ボランティアセンター 橋本）



人間社会学部
人間社会学科 Department of Human Sciences



去る五月二十三日金曜日JICE (一般法人日本国際協力センター) 主催の国際交流行事JENESYS2.0参加のフィリピン人大学生二十五人からなる訪日団が本学を来訪し、人間社会学科が主催する講義、学生との交流会に参加しました。人間社会学科がJENESYS2.0の学生たちを受け入れるのは昨年につづいて二度目(昨年度はASEAN各国からの学生三十名)となります。



訪日団の学生たちは本学到着後、まずは講堂で国際交流委員長フィリップ・クレイナー先生からの歓迎のスピーチを聞き、バルコニーに出て駿河湾と富士の絶景を楽し

むと共に、訪日団学生同士、そして本学学生たちと楽しそうに写真撮影。早くもこの段階で国際交流開始となりました。

新館一階ラウンジに移動して、本学学生たちと共に

に永山ルツ子教授による「認知心理学から見たクール・ジャパン」というテーマの講義を受けました。永山教授は視覚資料を駆使しながら流暢な英語でユーモアを交えた講義を披露。訪日団学生たちからの反応も上々でした。

講義終了後は、小グループに分かれて本学学生たち(うち何人かはコスプレを披露!)との英語でのディス



カッション。若者同士たちまち打ち解けて、笑顔の絶えない活発な話し合いが繰り広げられました。

訪日団学生たちは英和出発前にタガログ語の歌と、本場のフィリピン・ダンスを披露して本学学生たちをすっかり魅了し、名残惜しげに英和を後にしました。

英和の国際性、英語教育の伝統が遺憾なく発揮されたJICEとの提携行事は、今後も続いていくことでしょう。(人間社会学科 鬼塚)

人間社会学部
コミュニティ福祉学科 Department of Community Welfare



『あちよぼ』は、今年度で4年目を迎えました。毎回大盛況で、年度を重ねるごと、地域親子にずいぶん認知していただけるようになりました。

また、学生たちは、親子の要望にできるだけ応えられるように悪戦苦闘しながら、『あちよぼ』を通し、学年の枠を超えて協働し1つのものを作り上げる喜びを噛みしめています。月の保育計画・親子制作の準備・誕生カード作成などは、彼らの日々の取り組みから生れています。地域親子支援と学生の保育実践のための『あちよぼ』はライブそのものです。

2014年度は全7回行われます。年間テーマは「かおり」。このイメージに沿って毎月保育内容が展開されていきます。学生たちが考えた第1回目、5月のテーマは「はなのかおり」5月に咲く可愛い花見月のイメージ。6月は「あまいかおり」。イメージはアイスクリームやお菓子の甘い香りだそうです。7月以降も学生も親子も楽しめる、安全で清潔な『あちよぼ』は展開されていきます。



(コミュニティ福祉学科 永田)

『はびねす☆EIWAカレッジ』は、障害のある方の生活を豊かにすることを目的に、大学の持つ資源(学生、教員、施設等)を有効に活用し、地域に還元して



いく活動を行っています。活動4年目を迎える今年、従来の講座に加え、新たにスポーツ教室がスタートしました。5月～7月は、鍋谷照教授によるテニス教室が開催されています。土曜の午前、障害のある方と学生の明るい笑い声が多目的グラウンドに響いています。

7月から始まる4回の講座では、「Meet the World～地域から世界を見つめよう～」を共通テーマとし、留学生センター、武藤元昭学長、芦澤久江教授(現代コミュニケーション学科)、八木名菜子先生(ヴァイオリン奏者)を講師に招き、様々な視点から世界を旅します。また、企画・運営を担う学生スタッフの成長には目を見張るものがあります。活動を通して得た達成感や自己肯定感は、今後の彼らの人生を支えてくれるものになると感じています。

(コミュニティ福祉学科 狩野)

現代コミュニケーション学科

Department of Contemporary Communication



静岡科学館る・く・るの開館10周年企画展で、ゴムの手が自分の手のように感じる錯覚「ラバーハンドイリュージョン」の体験展示を行いました。この企画展は、「みる・きく・さわるのふしぎ展」というタイトルで、視覚や聴覚、触覚などの錯覚を体験しながら感覚の働きについて理解を深めましょうというものでした。期間は4月19日～5月18日でした。この中で、水曜の午後および金曜の午前に心理学ゼミを中心とした学生と一緒に現代コミュニケーション学科としてブースを設営し、展示を行いました。たくさんの来場者に自分の手の感覚に関する不思議体験をしてもらい、私たちも来場者とコミュニケーションを楽しんだり、展示に関して貴重な意見をいただきました。（現コミ学科 重森）



2014年1月30日(木)に焼津市観光事業の活性化に向けて、焼津市役所、焼津信用金庫、静岡英和学院大学短期大学部は産官学連携基本協定を締結いたしました。これを受けて、現代コミュニケーション学科では、焼津市の観光振興のためのアンケート調査を実施しました。第1回目は、4月13日(日)に行われた第60回焼津みなと祭りの会場で、第2回目は、5月10日(土)に観光施設(焼津さかなセンター、ディスカバリーパーク焼津、深層水ミュージアム等)への訪問客を対象に調査を行いました。調査に参加した14名の学生は、地元の人や県外からの人と話を交わしたり、地域の観光資源に触れ合ったりすることで、焼津市の観光について具体的に学ぶことができました。（現コミ学科 安）



食物学科

Department of Food Science



*2013年度卒業生と2014年度新入生の状況

2013年度の卒業生は、73名(内男子4名)でした。栄養士65名、フードスペシャリスト33名、フードサイエンティスト16名が誕生し、資格を活かした職を得てキャンパスを巣立っていきました。今後の活躍が期待されます。就職率は96.9%と昨年度よりアップし、県内短期大学の平均就職率を上回る好結果となりました。これは学生の頑張りは基より、キャリア支援課の強力な情報配信、ならびに支援課スタッフと学科教員による就職活動状況の確認徹底の賜物でしょう。

2014年度は、81名(内男子6名)の新入生を迎えることができました。元気にキャンパスライフを謳歌してほしいと願っています。（食物学科 高橋）

*教職員の進退状況

2014年3月末、教授堀江信之先生(在職5年)と准教授木下ゆり先生(在職7年)が静岡を離れ、それぞれ名古屋と福島の地で教鞭を執られることになりました。また、本学科卒業生で教務職員の萩原祐子さん(在職37年)が退職されました。

新年度4月から食物学科に、生化学分野教授に佐々壽浩先生、給食実習系助手に佐藤美紀さんと実験系助手に渡辺祥子さんの3名をお迎えしました。さらに、栄養学分野の准教授に望月裕子先生(旧助手)が就かれました。新体制となった食物学科の新たなスタートとなりました。学科教職員一同、栄養士教育に情熱をそそぎ取り組んで参りますので、御支援のほどよろしく願いいたします。（食物学科 望月）

ダブル

W 支援で就職活動をサポート

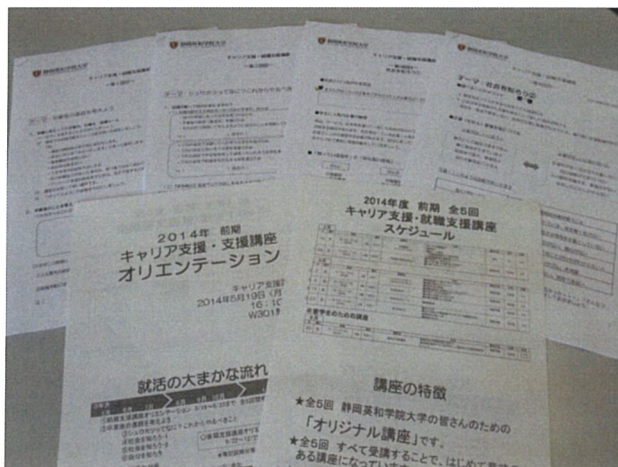
-キャリア支援課-

本学では、大学・短期大学部の両就職委員会を中心に、各学科教員とキャリア支援課との強い連携のもとダブル W 支援で、就職活動における学生の主体性を尊重しつつ、希望実現に向けた対話型のキャリア支援を行っています。

就職活動の決め手は、学生の自覚と早めの準備です。就職を希望する学生に対して、2014年度は「キャリア支援・就職支援講座」を次のとおり開催しています。

- 1 大学3年生対象
「静岡英和式オリジナル講座（大学編）」
前期6回、後期13回、合計19回
月曜日5時限16：10～17：40（90分）
- 2 短大1年生対象
「静岡英和式オリジナル講座（短大編）」
後期9回
木曜日5時限16：10～17：40（90分）
- 3 全学科全学年対象
「留学生就職対策講座」
前期1回
月曜日5時限16：10～17：40（90分）
- 4 大学4年生・短大2年生対象
「就職活動中フォロー講座」
月1回土曜日（4月～10月）※8月、9月を除く
・履歴書・エントリーシート完成講座
10：00～13：00（180分）
・模擬面接・グループディスカッション実践講座
13：45～16：45（180分）
- 5 大学3年生・短大1年生対象
「就職活動直前講座」
月1回（2015年1月～3月）
・履歴書・エントリーシート完成講座
10：00～13：00（180分）
・模擬面接・グループディスカッション実践講座
13：45～16：45（180分）
- 6 大学3年生・短大1年生対象
「就職活動直前講座」
・筆記対策 SPI試験集中講座（2015年3月）
集中5日間 合計14コマ1,260分

講座で使用するテキストは、汎用的なテキストではなく、本学学生のためだけのテキストを作成し使用しています。もちろん大学・短期大学部のテキスト内容は異なっており、またステップ型の講座ですから全講座を受講してはじめて意味のある内容となっています。すべての講座が終了すると一冊の「静岡英和式オリジナルテキスト」として完成します。（写真）静岡英和式オリジナル講座から学んだことを活かして就職活動をすすめていくことができ、就職を希望する学生の9割以上が静岡県内に就職しています。



大学3年生対象 前期「静岡英和式オリジナル講座」の講座風景

講座は、予約制となっています。各学科教員からの講座案内やキャリア支援課内の掲示、情報発信メール（メールアドレス登録者）などで講座案内を行っています。就職活動は事前準備が重要です。皆さんの積極的な受講をお待ちしています。

～就職率～

2014年3月卒業者の2014年5月1日現在の就職率は、大学では前年78.7%から86.0%へ7.3ポイント上昇し、短期大学部では前年86.1%から94.9%と8.8ポイント上昇しました。2014年3月卒業者の就職状況は以下のとおりです。

	2014年3月卒業生 就職状況	大学			短期大学部			合計
		人間社会	地域福祉 福祉文化	大学 計	現代 コミュニケーション	療育	短大 計	
今年度	在籍者数	130	65	215	69	76	145	361
	就職希望者数	99	44	143	52	85	117	260
	就職者数	83	40	123	48	83	111	234
	就職率	83.8%	90.9%	88.0%	92.3%	95.9%	94.9%	90.0%
前年度	就職者数	82	34	95	59	71	130	226
	就職率	72.9%	91.9%	78.7%	81.8%	89.9%	88.1%	82.8%

課外活動も積極的に頑張っています！！

-学務課-

空手道サークル

三年前に本学初となる空手道サークルが設立されました。学生には経験者が少ないため、部員の募集には少し苦戦していますが、精力的に對外試合に臨んでいます。

部長（コミュニティ福祉学科4年生）が所属する空手流派は和道会。各種大会での戦績は常に上位。そして、先日行われた和道選手強化合宿に参加し、平成26年度和道ナショナル（全日本）準指定選手として選考され、和道ワールドカップへの出場が期待されます（組手 一般女子 -55kg階級）。



和道ワールドカップは世界各国から頂点を目指す選手が集まる5年に一度の稀少な大会です。2015年和道会ワールドカップ選考会に向けて、日々の稽古に励んでいただきたいと思います。

主な結果報告（学生提出の大会報告書より）

サークル・個人	大会名	戦績
空手道サークル (コミュニティ福祉学科4年 女子学生)	・全日本空手道連盟 和道会 静岡県空手道競技大会	・形 個人の部 「優勝」(一般 男女) ・組手 個人の部 「優勝」(一般・高校女子) ・組手 個人の部 「優勝」(一般女子) ・組手 個大の部 「3位」(成年女子) ・形 個大の部 「優勝」(一般女子)
	・第49回和道会 全国空手道競技大会	
	・第45回静岡県空手道連盟選手権大会	
	・第31回和道会 静岡県空手道競技大会	
卓球部	・第53回東海卓球選手権大会	・人間社会学科3年 男子学生 男子シングルスで県予選通過 本戦3回戦敗退 ・コミュニティ福祉学科2年 女子学生 女子シングルスで県予選通過 本戦2回戦敗退 ・現代コミュニケーション学科2年 女子学生 女子シングルスで県予選通過 本戦2回戦敗退
	・中部日本卓球選手権大会県予選会兼名古屋オープン県予選会	・人間社会学科3年 男子学生 男子シングルスで中部日本 本戦出場決定 ・人間社会学科4年 男子学生・人間社会学科3年 男子学生 男子ダブルスで名古屋オープン 本戦出場決定 ・コミュニティ福祉学科2年 女子学生 女子ダブルスで中部日本・名古屋オープンとも本戦出場決定
馬術(個人) (コミュニティ福祉学科4年 女子学生)	・2013Fuji Horse Show Autumn Grand Prix	・JEF(日本馬術連盟)馬場馬術競技L1・L2・M1課目2013 「優勝」
	・第65回全日本馬場馬術大会2013Part1兼CDI3 Gotemba	・Lクラス馬場馬術競技(予選)JEF L1 課目2013 「7位 61.781%」 ・Lクラス馬場馬術競技(決勝)JEF L2 課目2013 「9位 61.493%」

卓球部

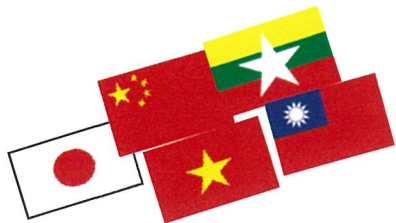
昨年度設立された卓球部も對外試合に積極的に参加し、日々のレベルアップに努めています。最近の活躍としては、6月に開催された中部日本卓球選手権大会予選会兼名古屋オープン県予選会に参加し、2名の学生が中部日本卓球選手権大会県予選会で予選通過を果たし、1名が他大学の学生と組み、女子ダブルスで中部日本・名古屋オープンの両予選会で通過を果たしています。本学から出場した3名には、7月と9月に行われる本戦でも健闘を期待したいところです。

馬術(個人)

学内の課外活動団体に属さず個人で對外試合に望んでいる学生もいます。コミュニティ福祉学科4年の女子学生は、幼少時代から乗馬を習い、高校生の時には国体で3位という輝かしい成績を修めています。そんな学生が昨年度馬場馬術の大会に出場しました。少しブランクがあったようですが、素晴らしい活躍を報告してくれました。



この他にも英和学院大学には体育系・文化系サークル併せて35の課外活動団体があり、その他にも個人で活躍している学生がいます。活動目的はサークルや個人によって様々ですが、日々の活動に励んでいますので、今後の活躍に期待します。次回は文化系サークルの活動報告を予定しています。(学務課 森)



留学生への活動を紹介☆

-留学生センター-

*新入留学生との交流会開催

新入留学生たちが新しい環境に慣れるために、4月16日（水）、新館棟1階のラウンジで新入留学生との交流会を開催しました。交流会には、40名以上の方が参加し、学生生活などについて話し合いながら親睦を深めました。また、新入留学生の様々な悩みに先輩学生からアドバイスをいただき、絆を深めることができました。



*日本語サポート事業

留学生の日本語能力向上と資格取得を支援するための日本語能力試験対策講座が、4月からスタートしました。中国、ミャンマー、ベトナム、台湾などの留学生が講座に参加して真剣に学習に取り組んでいます。そして、対策講座に参加できない留学生に対してはプリント配布や、日本人学生スタッフの協力を得た個別指導を行っています。今年も多く合格者が出ることを祈っています。



*英語勉強会開催

英語能力をスキルアップしTOEICテストにチャレンジしたい留学生の要望に応じて、4月から週に1回英語勉強会を開催しています。ハリントン先生を講師に楽しいレッスンが行われています。基礎英会話からTOEICテスト対策問題など多方面の英語能力を身に付けるようにレッスンが進められています。実りのある学習をして参加者の学習意欲が更に増したように感じます。



*2014年ふじのくに留学生親善大使に5名が選ばれました。

国際交流の推進事業に積極的に協力し、県民との交流を図りながら母国の文化を紹介し、日本の文化を発信する留学生をふじのくに留学生親善大使と任命する事業に、今年度は本学の留学生5名が選ばれました。県内の大学で計20名の留学生が任



命された中、本学は昨年引き続き多数が任命されました。英和生としての誇りを持って親善大使として活躍をされることを期待しております。（留セン鈴木）

バリアフリー化工事完了&多目的運動場

-総務課-

国の補助金を受けて行った今回の工事で、本館には玄関前にスロープと昇降用リフトを、また体育館前にもスロープを設置し、西館には階段用の昇降機を取り付けるなど、これにより車椅子の方でも館内のスムーズな移動が可能となりました。この他にも身障者用バリアフリートイレを設置し、より安全で利用しやすい環境が整いました。（総務課 安達）



西館階段昇降機

玄関前スロープ



2013年10月に稼働を開始した、保護者・学生の皆様からの寄付と大学後援会の寄付によって整備された多目的運動場について、利用状況を報告します。2014年6月現在、週に2コマの体育の授業をはじめ、空き時間には毎日のように学生が利用しております。外部のスポーツ団体としてフットサル団体が2団体、テニス団体が2団体登録しており、地元池田山自治会の2グループと合わせて、毎週土曜日は常に2ヶ月先までほぼ予約で埋まっているという状況です。今年の夏には高体連主催テニス大会の会場として貸し出すことも予定されており、今後ますます多くの方に利用していただくことで、本学の存在感を高めていければ幸いです。（総務課 高橋）



静岡英和学院大学
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY



静岡英和学院大学短期大学部
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE

〒422-8545

静岡市駿河区池田1769

TEL 054-261-9201

FAX 054-263-4763

<http://www.shizuoka-eiwa.ac.jp>

info@shizuoka-eiwa.ac.jp

企画・編集 学報委員会